研究テーマ	造形遊びから広げる材料や表現への興味・関心と発想や構想の能力の育成 ―第２学年「光のプレゼント」・「ならべて　むすんで　つないで」の実践を通して

小美玉市立玉里東小学校　　教諭　浅野　梨江

Ⅰ　研究テーマについて

私は，楽しみながら図工や美術に取り組める子供達の育成を目指している。小学校では，図工を好きな児童，楽しいと答える児童が多い。しかし，徐々にその割合は小さくなり，中学校に上がると，美術を「好きだ」と答えたり「楽しい」と答えたりする生徒は減り，好きと嫌いの差が縮んでくる。図工や美術は，自分の思いを自由に表現したり，言葉ではない方法で人に自分の思いを伝えたりと，豊かな情操を養い，生活を豊かにする役割も備えている。よって，この現状を，図工や美術が好きな者として，図工・美術を専門とする教諭として，とても残念に思っている。

図工や美術を楽しめない原因の一つに，いろいろな素材との関わりが乏しくなっている現状があると感じた。それは，今日，情報化社会の発展により，インターネットで検索をかければ，調べたい対象がどんなものであるかが，すぐに画面で見て知ることができる。しかし，そこにある物体は「ザラザラしている」のか「引っ張ると伸びる」のか「光に当てると透ける」のか「どんなにおいがする」のか等は，画面からだけでは分かりにくい。子供達の中で，実際に手で触ってみたり，においをかいでみたりと，五感を使って試してみる経験が少なくなっている現状があると捉える。対象をよく知らなければ，図工や美術の創作の場面で，その対象を自ら使おうと考えることはまずないし，いざ使おうとしても戸惑ってしまう。戸惑いは失敗を何度も生む原因にもなる。よって，あまり楽しくないという感情が生じてしまうのではないだろうかと考える。

そこで，小学校のうちからいろいろな材料に触れる体験を通して，様々な表現方法を知ることが必要であると考えた。いろいろな材料に触れてその対象を自分自身の体験を通して感じ取るということは，創作活動における表現や技術の習得にもつながる。表現の領域の中でも，「造形遊び」が，特にその役割を担っている。体全体を使って材料と関わり，感覚や気持ちを生かしながらつくる活動。体全体を使って，触れること，確かめること，考えることを，楽しみながら行うその活動は，様々な対象との出会いであり，子供の「ためしたい」「ひろげたい」という気持ちを刺激し，最終的に「線に表す」「立体に表す」活動へとつながり，材料を活かしていける，発展させていけるのではないかと捉えた。つまり，「造形遊び」は，感性を働かせながら自由につくりだす喜びを味わうという，創作活動における基礎的性質・表現の根源となる性質を持ち合わせているのである。

また「造形遊び」は，自分ひとりの思いを確認するだけでなく，「こうしよう」「次はこうしてみようよ」と友達と話し合い，交流しながら進めていく等，言語活動の場ともなる。自分の思いを伝えたり，友達と思いを共有したりする中で，より豊かな発想が生まれ，感性が磨かれるものと考える。

以上のことから，「造形遊びから広げる材料や表現への興味・関心と発想や構想の能力の育成」を今回の研究テーマに設定した。

Ⅱ　研究の実際

〈児童の材料との関わりアンケート〉

（２年１組　男子 10 名　女子５名　計 15 名　平成 27 年１月　実施）

①　何かを作ったり，絵を描いたりするのに，お家で使ったことのある材料はありますか。

材料	人数
セロハンテープ	14 人
ガムテープ	13 人
布テープ	３人
ビニールテープ	６人
スズランテープ	４人
マスキングテープ	６人
シール	10 人
毛糸	８人
糸	７人
紐	５人
布	５人
リボン	６人
フェルト	３人
綿	６人
ボタン	５人
ビーズ	７人
モール	５人
クリップ	７人
ビー玉	10 人
おはじき	７人

材料	人数
画用紙	８人
包装紙	５人
折り紙	10 人
工作用紙	４人
広告紙	７人
新聞紙	９人
トイレットペーパー	１人
キッチンペーパー	２人
トイレットペーパーの芯	８人
ラップの芯	８人
ラップ	２人
色セロハン	４人
アルミホイル	３人
紙袋	５人
ビニール袋	６人
お菓子の袋	５人
空き箱	６人
空き缶	４人
プルタブ	６人
空き瓶	３人

材料	人数
瓶の王冠	２人
空きペットボトル	４人
ペットボトルのキャップ	５人
ダンボール	７人
発泡スチロール	４人
紙コップ	８人
紙皿	６人
ストロー	９人
割り箸	12 人
爪楊枝	10 人
竹ひご	５人
陶器（お皿）	２人
タイル	２人
鏡	１人
CD（ディスク）	０人
水／色水	３人
絵の具	４人
グリッター（ラメ）	３人
油粘土	５人
紙粘土	７人

材料	人数
石	３人
土	１人
砂	２人
草	２人
葉っぱ	３人
木の枝	３人
花びら	１人
貝殻	６人
卵の殻	２人
磁石	４人
釘	２人
ネジ	２人
木の板	４人
プラスチックの板	１人
金属の板	１人
机（テーブル）	３人
椅子	３人
床	２人
その他	１人

まず，児童が普段からどのような材料と関わっているのかを確かめるべく，アンケート調査を行った。今回は，児童が主体的にどのような材料と関わっているのかを調査するため，学校での経験は含めず「家での経験」に限定した。

前頁のアンケート①の結果から，身近に手に入る材料の中でも，学校で活用した経験や，それ以前に幼稚園等で使ったであろう材料と多く関わっていることが分かった。ラップの芯や紙コップ，割り箸が多いという結果は，同時期に行っていた生活科の単元「おもちゃまつりをひらこう」でのおもちゃ作りやその試作を家庭でも行っていることが大きく関わっているものと推測できる。一方で，学校には多くあっても家にはなかなかない材料や，学校でまだ扱ったことのない材料との関わりは，家で主体的に関わる機会がほとんどないことが分かった。また， CD（ディスク）や鏡，自然物等，普段身近に接していてもそれらを材料として活用する発想がないことが分かった。

今回は，その中から，家ではあまり関わる機会のない，スズランテープと色セロハンとの関わりを深めていくこととした。

② 次のことばの中で，「おもしろそうだな」「やってみたいな」というものを選んでください。

ことば	人数
ならべる	4人
かこむ	7人
ひっぱる	7人
うかばせる	8人
あつめる	8人
かさねる	6人

ことば	人数
わける	5人
つむ	6人
つるす	5人
うつす	5人
まるめる	5人
とばす	9人

ことば	人数
つなぐ	7人
まぜる	8人
くずす	5人
ながす	6人
つつむ	5人
はる	6人

ことば	人数
ひろげる	7人
ひっかける	4人
たらす	8人
すかす	7人
やぶる	7人

アンケート②として，どのように材料と関わる活動がしてみたいかを聞いた。結果は，「とばす」「うかばせる」「あつめる」「まぜる」「たらす」といった活動に魅力を感じている児童が多いことが分かった。今回は，色セロハンを扱うということで「すかす」ことによる新たな材料への気づきを目指した。また，スズランテープを扱うということで，色セロハンでの「すかす」経験と類似的な気づきとともに，「つなぐ」経験による気づきや感動を味わえるようにしたい。さらに，広い場を使用することにより，アンケートにも記したような「ならべる」「かさねる」「かこむ」「つつむ」等の派生的な活動が児童から主体的に出てくることにも期待したい。

【実践例 ①】

1 題材名 「光のプレゼント」

2 題材の目標

画用紙を切り抜き，色セロハンをのせ，透過した光や影をいろいろな場所に映し，その形や色の面白さや美しさを体全体で味わうことができる。

3 題材について

（１）児童の実態（男子 10 名 女子５名 計 15 名）

本学級の児童は，絵を描いたり，ものを作ったりすることを楽しいと感じている児童が多い。それは，図工の授業だけでなく，生活科の授業や休み時間の様子からも感じられる。しかし，児童の創作活動を観察していると，２年生ということもあり，折り紙や油粘土等の，自分の知っているいつも決まった材料を繰り返し使っていることがほとんどであった。まだ，自分の身のまわりにあるたくさんの材料の可能性に気づいたり出会ったりしていないのが現状である。

（２）題材観

本題材は，色画用紙と色セロハンを用いて，色セロハンの光の透過によって映し出される形や色の面白さ，加えて，画用紙を切り抜いたときにできる影の形の面白さを，自分自身で感じたり友達と話し合ったりしながら味わう活動である。児童の中には，色セロハンを知っている児童もいるが，たくさん扱ったり，その性質を詳しく知っていたりする児童は少ない。今回，実際に手に取っていろいろ試しながら，光を透過する，色が映し出されるといった色セロハンという材料のよさを知り，それを活かして自分の思いを形にしていけるようにしたい。そして，実際に屋外に出て光に透かせた時の驚きや喜びを友達と共有できるようにしたい。また，本題材は画用紙を切り抜くという場面で，既習であるカッターナイフの使い方の復習をし，技術向上の場ともなり得る。

（３）指導観

指導に当たっては，児童がまだあまり知らない色セロハンという材料に，触ったり，光に透かしてみたり，重ねて透かして眺めたり，丸めて広げてみたり，はさみで切ってみたりと，自由に材料と向き合うことを大切にし，その活動時間を充分に保障したい。その多様な活動で感じた色セロハンのよさや可能性，屋外でいろいろな場所へ映し感じた喜びや面白さ，新たな発見やひらめきを，今後の「線に表す」「立体に表す」等の活動創作活動に広げたり，生活の中に活かしていったりできるように，児童の「気づき」を大切にしながら指導・支援していく。

4　題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
・　映したいいろいろな形を切り抜いたり，色を選んだりして楽しもうとしている。 ・　光を透過した色セロハンや透過光により映し出された影の形や色を楽しもうとしている。	・　透過光により映し出される影の形や色の楽しさや面白さを考えることができる。	・　映し出す形の切り抜き方や色の並べ方を工夫して作ることができる。 ・　カッターナイフを安全に使い，思い描く形を切り抜くことができる。	・　いろいろな場所で光を通し，その形や色の面白さや美しさを感じ取り，味わうことができる。 ・　友達との話し合いを通して，形や色の面白さや美しさに気づくことができる。

5　指導と評価の計画（２時間扱い）

時　間	学　習　内　容　・　活　動	評　価　規　準　・　【　評　価　方　法　】
第１次 ①	・　色画用紙を自分の思いに合わせてカッターで切り抜いたり，色セロハンを貼ったりして，気に入った形や色になるように作品を作る。	◎　映したいいろいろな形を切り抜いたり，色を選んだりすることを楽しもうとしている。 関【観察】 ◎　透過光により映し出される影の形や色の，楽しさや面白さを考えることができる。 想【観察・作品】 ○　映し出す形の切り抜き方や色の並べ方を工夫して作ることができる。技【観察・作品】 ○　カッターナイフを安全に使い，思い描く形を切り抜くことができる。技【観察・作品】
第２次 ① （本時）	・　屋外に出て，地面や建物の壁，遊具等に映したり，友達と見せ合い，話し合ったりして，映った形や色を観察し楽しむ。	○　光を透過した色セロハンや透過光により映し出された影の形や色を楽しもうとしている。 関【観察】 ◎　いろいろな場所で光を通し，その形や色の面白さや美しさを感じ取り，味わうことができる。 鑑【観察・対話】 ◎　友達との話し合いを通して，形や色の面白さや美しさに気づくことができる。 鑑【観察・対話】

6　指導の実際

（１）目標

○　透過した光や影をいろいろな場所に映し，その形や色の，楽しさや面白さ，美しさを体全体で味わうことができる。

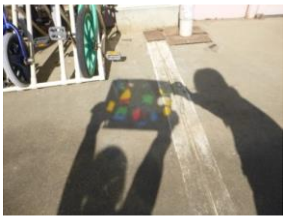
（２）準備・資料

（教師）作品モデル・カメラ

（児童）作品（色画用紙・色セロハン）

（３）展開　　　　　　　　　　　　　　　　　　（●は全体に対して，○は個に対しての支援，㊎は評価）

配時	学習活動・内容	主な教師の提案(T)・児童の反応(C)	指導上の留意点・評価
5	1　本時の活動について確認する。 ㋱　作った作品をたいようの光にあて，光のプレゼントをうけとろう。	(T)「今日は，先週作った作品を外で太陽の光に当てて試してみよう。」「どんなふうに映るかな。」 (C)「やったー！」 (T)　窓辺でやって見せる。 (C)　確認し，自分の作品の仕上げや修正等を行う。	●　本時のめあてをしっかりと理解し，見通しをもって，意欲的に学習に臨めるよう，全員でめあてを読む。
5	2　作品の最終調整を行う ・　どのように透過し映し出されるのか，見え方を窓辺で少し確認する。	(C)「どこに映そう。」 	●　教師の作品モデルや児童の作品を取り上げ，光の透過の仕方を確認できるようにする。

25	3　屋外に出て，いろいろな場所に映してみる ・　地面 ・　壁 ・　遊具 ・　友達の服 ※　友達と話し合いながら，友達と協力しながら試す ・　ここに映してみよう ・　並べると…	(T)「まずは地面に映してみよう。」 (C)「あ！映った，映った。」「きれい。」  (C)「魚みたい。」「すごくカラフル。」 (C)「色分けしたところもちゃんと出たよ。」 (C)「青と緑を重ねて貼ったところは色が出てこない。真っ黒になっちゃう。」 (T)「そうだね。一枚はがしてごらん。」 (C)「セロハン貼ってないところも形になってる！」 (C)「本当だ！すごい！」	●　安全に気を付けながら，様々な場所で自由に試すことのできるよう配慮する。 ○　映し方に困っている児童，試してみて手直しをしたいと考えている児童には，適宜，直し方のヒントや工夫の仕方を助言する。 ●　新たな発見や気づいたこと等の児童の活動の中でのつぶやきを大切にし，取り上げることで，周りの児童と喜びを共有し，新たなひらめきにつなげていけるよう支援する。 ㊞　いろいろな場所で光を通し，その形や色の面白さや美しさを感じ取り，味わうことができる。 鑑（観察・対話）
7	4　教室に戻り，感想や発見したこと，喜びを伝え合う。 ・　色の影ができた ・　影の形が面白かった ・　いろいろな色が映ってきれいだった。 ・　○○の形に見える！	 (C)「石のところにも映った！」 (C)「タイヤのところにも映ったよ。」 (T)「本当だ。すごい発見だね！」	㊞　友達との話し合いを通して，形や色の面白さや美しさに気づくことができる。 鑑（観察・対話） ●　「光のプレゼント」＝「光を透過した時に映し出される色や形の面白さや美しさ」ということに，振り返りを通して気づいていけるよう支援する。
3	5　本時の活動を振り返り，次時の学習課題を知る		●　次時の見通しをもち，これからの学習も主体的に取り組んでいけるようにする。

【実践例 ②】

1　題材名　「ならべて むすんで つないで」

2　題材の目標

椅子の形状やスズランテープの色をもとに，自分で考えたり，友達と話し合ったりして，試しながら，材料のよさに気づき，体全体を働かせてつくることができる。

3　題材について

（1）児童の実態（男子 10 名　女子５名　計 15 名）

本学級の児童は，運動会の競技の準備等で，ポンポンを作るために，まとめたりさいてみたりと，スズランテープを扱った経験がある。比較的馴染みのある材料である。また，光を透過するという面で似ている色セロハンを使った活動も少し前に行った。しかし，今回のように大量のスズランテープを広げて何色も用いるといった体験は初めてである。

（２）題材観

本題材では，普段生活している教室という場から，自分の感覚や友達と話し合ったことをもとに，スズランテープや椅子といった身近な材料をもとに，思いついたことをどんどん試しながら，体全体を使って楽しみながら作っていく活動である。広い場で大量の材料を，体全体を動かして自由に使うといった普段なかなかできないような体験を通して，児童の，材料との新たな関わり方やひらめき，新たな可能性への気づきをねらいとしている。

（３）指導観

まず，広い場を充分に活用していけるように，教室全体を使えるよう働きかけを行いたい。そこから，友達との話し合いで椅子の配置を決め，スズランテープを結んでつなげていく作業では，話し合ったことや自身が思いついたことを自由に試していけるよう支援していく。その過程でのひらめきやアイディアを大事にし，思いをどんどん広げていけるようにしていきたい。そして，活動の終末に，最終的にでき上がった形を皆で眺めて，感想や思い，ひらめきや発見の共有をすることで，「ためしたい」「ひろげたい」という思いを，今後の造形活動へもつなげていけるようにしたい。

4　題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
・　椅子の形や並べ方，スズランテープの色や特性に関心をもち，体全体で活動を楽しもうとしている。	・　椅子の配置を考えたり，スズランテープの色の組み合わせを考えたりしながら，椅子を起点に，スズランテープを結んだりつないだりする造形的な活動を考えることができる。	・　椅子の並べ方やスズランテープでの結び方やつなぎ方を工夫して活動することができる。	・　自分や友達の結び方やつなぎ方を見たり，中に入って楽しんだりして，自分や友達の工夫や感じ方の違いに気づくことができる。

5　指導と評価の計画（１時間扱い）

時　間	学　習　内　容　・　活　動	評　価　規　準　・　【　評　価　方　法　】
第１次 ① 本時	・　友達と話し合いながら椅子の配置を考えたり，スズランテープの色の組み合わせを考えたりしながら，椅子を起点にスズランテープを結んだりつないだりする。	○　椅子の形や並べ方，スズランテープの色や特性に関心をもち，体全体で活動を楽しもうとしている。　関【観察】 ◎　椅子の配置を考えたり，スズランテープの色の組み合わせを考えたりしながら，椅子を起点に，スズランテープを結んだりつないだりする造形的な活動を考えることができる。　想【観察・対話】 ○　椅子の並べ方やスズランテープでの結び方やつなぎ方を工夫して活動することができる。　技【観察】 ◎　自分や友達の結び方やつなぎ方を見たり，中に入って楽しんだりして，自分や友達の工夫や感じ方の違いに気づくことができる。　鑑【観察・対話】

6　指導の実際

（１）目標

○　椅子の形状やスズランテープの色をもとに，自分で考えたり，友達と話し合ったりして，結び方やつなぎ方を試しながら，体全体を働かせて創作活動することができる。

（２）準備・資料

（教師）スズランテープ・椅子

（児童）はさみ・椅子

（３）展開　（●は全体に対して，○は個に対しての支援，㊞は評価）

配時	学習活動・内容	教師の提案(T)・児童の反応(C)	指導上の留意点・評価
5	1　本時の活動について確認する。 ㋱　ならべて　むすんで　つないで　みよう。 どんなせかいができるかな？	(T)「今日は，この広いスペースで椅子とスズランテープを使って大きい世界を作ってみたいと思います。」 (C)「どんなふうに？」 (C)「おもしろそう！」 (T)「危ないので，はさみを持ちながら歩きまわらないようにしましょう。」「結んだスズランテープ	●　本時のめあてをしっかりと理解し，見通しをもって，意欲的に学習に臨めるよう，全員でめあてを読む。

	・　安全な作業の仕方 ・　道具の用い方の確認 ・　スズランテープの使い方	に引っかかって転ばないよう足元をよく見て移動しましょう。」 (C)「どうしよう。」 (C)「どんなふうにしようか。」 (C)「円くしようよ。」 (C)「いいよ。」	㊏　椅子の形や並べ方,スズランテープの色や特性に関心をもち,体全体で活動を楽しもうとしている。 関（観察・対話）
5	2　椅子を並べ，配置を決める。 ※　自分で― ・　ここに置いてみようかな ・　並べたらどうかな ↓ ※　友達と話し合って― ・　並べてみよう ・　円く並べてみよう	(C)　全体で円形に椅子を配置する。 スズランテープを引っ張り結び始める。 	●　椅子やはさみを扱ったり，スズランテープを張り巡らせたりする活動なので，安全に活動できるよう指導する。 ●　個人の思いから，児童同士の対話や話し合いへと，自然につなげていけるよう助言する。
25	3　多色のスズランテープで椅子同士，スズランテープ同士を結び，つなげていく ○　自分で― ・　緑を使おう ・　○○くんの椅子とつなげてみよう ↓ ○　友達と話し合って― ・　一緒に長くつなげよう ・　こっちをもっているから向こう側を引っ張って結んで	(T)「高さを変えて結んでも面白いかもしれないね。」 (C)　徐々に，分担したり手伝ったりしている様子が見られる。 椅子だけでなく，テープとテープの隙間を色を考えながら結んで埋めている様子も見られた。 (C)「テープが重なっているところが透けて違う色になっていてきれい。」 (T)「本当だ！新発見だね。」 (C)　テープが張り巡らされるにしたがって，自然とテープの下に潜って活動する児童が増える。 (C)「潜ると面白いよ！」 	●　活動の楽しさとともに，材料の持つ特性やよさ，可能性にも目を向け，感じ取ることのできるよう支援する。 ○　結び方やつなぎ方に困っている児童には，適宜，助言や，周りの友達へ働きかけを行う。 ●　新たな発見や気づいたこと等の児童の活動の中でのつぶやきを大切にし，取り上げることで，周りの児童と面白さや驚きを共有し，新たなひらめきにつなげていけるよう支援する。
7	4　椅子の上に乗り，少し高いところからでき上がった世界を眺め，感想を伝え合う。 ・　色がいっぱいできれいだね ・　テープがたくさんですごいね	(T)「みんなで，できた世界を上から見てみよう。」 (C)「わー！きれい。」 (C)「すごい！」	㊏　椅子の配置を考えたり，スズランテープの色の組み合わせを考えたりしながら，椅子を起点にスズランテープを結んだりつないだりする造形的な活動を思いつくことができる。 思（観察・対話）

	・　この部分がたくさんつながっている	(C)「何かの形ができてる。」 (C)「蜘蛛の巣みたい。」 (T)「本当だね。」「あと，さっき，A ちゃんが言ってたけど，テープが重なった部分は色が本当に変わるんだね。」 (C)「中に潜りたい。」 (C)「僕も。」「私も。」 (T)「じゃあ，最後にみんなで潜ってみようか。」 (C)「おもしろかった。」 (C)「またやりたい。」	
3	5　本時の活動を振り返り，次時の学習課題を知る。		●　次時の見通しをもち，これからの学習も主体的に取り組んでいけるようにする。

Ⅲ　研究の成果と課題

【成果】

造形遊びによって，今回関わった，これまで疎遠だった材料への関心は高まっているように感じる。実際に体全体を使って対象と関わることにより，今回の「透過性のあるテープの重なりによる色の変化」に気づいたり，「色や形の組み合わせの面白さ」に気づいたりと，造形遊びを通して素材の特性やよさを知ることができた。また，今回扱った材料を次の創作活動で積極的に使おうと試みている場面もみられた。

また，その後行った，単元「ケーキやさん」でも，積極的に様々な材料を扱ってみようという気持ちが見られ，事前に教師がアイディアの一部として紹介したモールやビーズ以外の材料を自分で選び，実際に持参してきた児童も多かった。

他教科においてもその姿勢は見られた。生活科や国語科の「おもちゃづくり」では，もっと楽しいおもちゃになるようにと，見本や例示されている材料と異なる材料を選び，用いて，工夫して作っている様子が見られた。(例：紙コップと松ぼっくりとタコ糸で作る剣玉を，糸の部分をゴムに替え，玉の部分をビー玉に替えて，入れる時に伸びるようにし，面白くしようとした。)

そして，話し合い，伝え合いながら行うこの活動は，児童の感性を刺激し合い，充実したものになったのではないかと考える。一人一人の個性やそれぞれのよさを認め合う場にもつながっていったようである。

今回のように，知ることができた材料の特性やよさを活かした創作活動を，今後も継続していけるような授業を行っていきたい。

【課題】

各実践の終末部において，楽しさ故に，造形遊びの「遊び」の部分のみが強まり，「造形」から離れていきそうな児童の姿も見受けられた。造形遊びが「ただ楽しかった」「ただ面白かった」だけにならないよう，何のために行うのかをより明確にしていく必要があると感じた。よく振り返りを行ったり，子どもの気づきや発見を拾い上げ学級全体で共有したりして，「楽しい」,「作りたい」の気持ちの土台となる知識や技術も併せて身に付けていけるよう，しっかりと指導していかなければならないと，研究を通して感じたことである。

今回，実践の前にアンケートを行い，授業を行ったが，その後どう変化したかを，まだ把握できていない。同様のアンケートをとることで，児童と材料の関わりがどう変化したか，関わりが増えたかを確認したい。その上で，どのような関わりや活動を増やしていく必要性があるかを吟味していきたい。

今年度は，昨年度と同様に第２学年を担任している。同じ学年だが，児童の実態も昨年度とは大きく異なる。材料との関わりや教師の提案や働きかけも，画一的でなく流動的に，児童の実態に合わせ，適宜，対応させ，変化させ，よく考えながら行っていかなくてはならないと感じた。